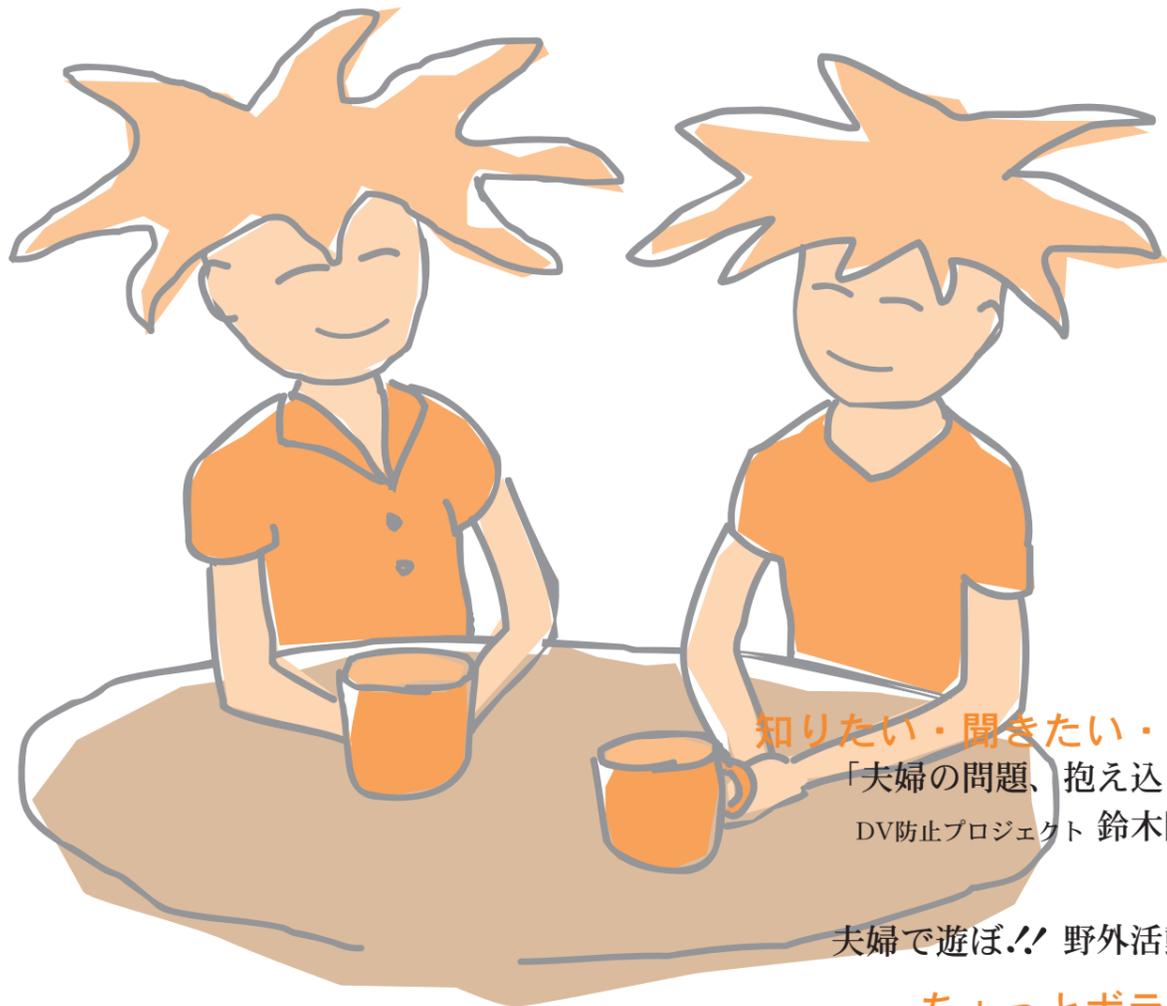


まなこ

2000
No.39

企画・発行 武蔵野市児童女性部児童女性課女性計画係



知りたい・聞きたい・考えたい

「夫婦の問題、抱え込まないで」
DV防止プロジェクト 鈴木隆文弁護士

共遊び

夫婦で遊ば!! 野外活動センター

ちょっとボランティア

武蔵野市ミニテニス連盟 松本茂代さん

特集 「夫婦」を考えてみよう

男25人・女30人のピュアな声

こんな夫婦いいな

[永野夫妻・中谷夫妻・中山夫妻・藤原夫妻]

平成十二年度「まなこ」レポーターを紹介します (五十音順)

厚沢 尚子 (30歳・緑町)
出産を機に、主婦になった2年。社会との接点がなくなってきたような気がしています。「まなこ」のレポーターを通じて、視野が広がればと思っています。また、地域で活動されている方のお話を聞いたり、知り合いの人が増えたらうれしいです。

池見美貴子 (22歳・吉祥寺北町)
大学を卒業し、社会人となりました。ボランティア活動用特別休暇の整っていない企業が、少ないように感じています。ボランティアと仕事の両立を目指します。今日この頃です。

印南 幸子 (41歳・西久保)
趣味はサッカー。プレーするのも観るのも大好き。「武蔵野クラス」というママさんチームに入っています。中央公園で一緒に玉蹴りしませんか。

小川 由華 (24歳・緑町)
今の生活に関係のないもの。いつか使う時が；なんて思ってしまった。なかなか、脂肪は減りません。「まなこ」レポーターとして心機一転。果たして、脂肪は減るのかな。

長内 レエ (68歳・中町)
「まなこ」レポーター、2年目になりました。外に向けての実活動をしてみることも必要ではないかと思えます。子どもが好きです。どうぞよろしく。

木田アツ子 (52歳・吉祥寺南町)
住み良い社会は、自分たちで作って上げていくものである。「まなこ」は、「誰もがその人らしく生きていくための地域とはどんなものなのか、そのためには住民としてどうしたらいいのか」を皆で考えていくための読みやすい情報誌でありたい。

桑原 照子 (79歳・西久保)
「まなこ」のレポーター、2年目になりました。週に3日程、テンミリオ

ンハウス「川路さんち」で、お茶をたてたり、手芸をしたりして楽しく過ごしています。元気でパワフルな仲間たちと、いろいろなことに挑戦していきたいです。

桜井 弘子 (48歳・八幡町)
「まなこ」を知らない人が意外に多いことに驚きました。市民が作る市民のための情報誌なので、沢山の人が知ってもらい、興味を持って読んでもらえるようにしたいと思います。



写真

レポーター会議

末廣 純江 (33歳・境)
とてもおしゃべりな2歳の娘。声が大きく、絶え間なくしゃべり続けているので、聞いていただけで疲れてしまふ。幸い、近所に一緒に育児をするたぐさんの仲間が。毎日、楽しく過ごしています。

榎戸 薫 (60歳・中町)
大自然の中を歩くことが大好きだった20代。活け花、フラワーアレンジメント、ガーデニングなど花々を楽しんだ40年。名もない田舎道を歩き、温泉に入り、蕎麦を食し、美術館を巡るジジババトレッキングの日々は、今も変わっていない。

福岡みゆき (42歳・西久保)
今、パソコンに夢中です。朝、起きたら電源を入れ、「ごきげんいかが」とキーをたたきます。人との対話のようには返って来ると、とても嬉しい。「まなこ」のレポーターとして、パソコンが活用できたら幸せです。

星 詩子 (35歳・境)
子どもに手がからなくなりました。「何か始めなくちゃ...」そんな私の第一歩が、この「まなこ」レポーター。「おかあさん」だけじゃない私と向き合える幸せをかみしめてがんばるゾ!

細原 久雄 (64歳・吉祥寺北町)
東京女性財団のモニターを務め、おもしろかった。気軽に「まなこ」レポーターを引き受けたところ、黒二点で気取らずにいい思いをしている。今後の労働力不足には、高齢者と女性の就業率を上げるのが肝要だと考える。

前野 正江 (54歳・桜堤)
年ごとに、ますます元気な櫻の枝振り。押さぬ味の玉川上水沿いの桜並木を憂う。いつまでも、「桜堤」という名にふさわしい場所であってほしいと恋願う。絵手紙書きを楽しむ花の下に住人。

吉田 史美 (28歳・吉祥寺北町)
写真が趣味で、89歳になる祖父に教わりながら、風景やペットのジャンガリアンハムスターを撮影しています。祖父といっしょに、「まなこ」の誌面に登場できたら嬉しいですね。

渡辺 美穂 (33歳・境南町)
会計事務所のパートと作文の添削の仕事をしています。幼稚園の子が二人。夫は転勤族です。広い視野を持ち、男女平等参画社会の実現のために活動していきたいです。特に、男女混合名簿が当たり前になってほしいです。

編集後記

☆取材は何時も自転車で行って。が、今回の編集が始まってすぐ右腕を骨折。腕を吊り歩いて取材していると、段差やそばを早足で通る人、乱暴に走る自転車。とても怖い！
☆夫婦の問題は、私にとって大きなテーマ。年月と共に変化する夫婦の関係は、子どもが手を離れつつある今、良きパートナーとしての関係を模索するとき。大切なのは、話し合うこと。仮面夫婦には、なりたくない。
☆「まなこ」を読む側から、書く立場に移って、「何事もやってみなければわからない」を実感。テープレコーダー持った取材は、回っているのが気になって...。初体験に付き合ってくれた方々に感謝!

☆これから、夫婦を育てて行こうとする二人に会い「新鮮で今風」が、チヨッピリ羨ましく、遥かかなたの我が新婚時代を振り返れば、それなりにスウィートだった」と懐かしく取材には、何のせい? (本間則子)
☆始めての取材に右往左往。
慣れない原稿書きに四苦八苦。一つ一つ教えてもらいながら、「毎日勉強」の日々でした。夏休みもがんばります!
どうぞ、よろしくお願ひします (森 治美)
☆編集会議は桜の頃から。新緑の5月を過ぎて、今は日差しもまぶしい市役所の会議室。季節が変わり、「まなこ」の表紙も誌面も新しくなりました。デザイナーは日比康人さん。新進気鋭の二十代です。(向井一江)

STAFF

レポーター	厚沢尚子・池見美貴子・印南幸子 小川由華・長内レエ・加藤和子 菊地一郎・木田アツ子・久慈平輝 桑原照子・小林庸子・桜井弘子 末廣純江・榎戸 薫・福岡みゆき 星 詩子・細原久雄・前野正江 真壁正江・三浦直子・吉田史美 渡辺美穂
取材	向井一江・浜 俊子・矢島幸子
編集	倉内弘子・本間則子・森 浩美
デザイン	日比康人
印刷	コロニー東村山印刷所

特集 夫婦をを考えてみよう

—まなこレポーターと、そのネットワークがフル回転—
集まった意見は、男性25人、女性30人（20代から70代 市内在住・在勤で既婚・未婚・独身の方々）のピュアな声です!!

●あなたにとって良妻賢母のイメージは？

男性
*日本の家庭（子育て、財政、教育、躾などいわゆる日本文化）を実質的に創ってきた女性。 55歳 公務員

*古今東西を問わず、理想の女性像。「古い」と言って軽視してはいけません。最近の学級崩壊、援助交際傍若無人な若者の増殖は「賢いお母さん」が絶滅寸前になっているからでは？日本再生のカギは「賢いお母さん」の復活にかかっています。 33歳 会社員

女性
*これからの時代、バランスを重んじて子どもや夫のためだけに埋もれてしまわない、しかも妻や母としての役割もこなせる、そんな生き方ができる女性が良妻賢母では？ 32歳 主婦

*和服を着て髪の毛をひとつに束ねている人のイメージ。きちんと自分を持っていて広い目で、家族、人物事を見ているりんとした人。 24歳 フリーター

*古風で懐かしい、でも今なぜか新鮮な感じがします 41歳 主婦

●「良夫賢父」の言葉はありません。なぜでしょう？

男性
*男が良夫であり、賢父であるということは、タテマエとして自明であるから。 52歳 大学教授

*質問自体がナンセンス。家庭を守るのは女性の大切な仕事です。 33歳 会社員

*日本人の感覚の中に、男性は家庭の中での「夫」や「父」の顔よりも社会的な顔を重んじる風潮があるら。 26歳 会社員

女性
*女はあくまでも陰で支えてきたからこそその言葉。夫や父は表の存在であり公の顔を持つことができたので「良夫賢父」の言葉はなかった。 54歳 主婦

*昔の男の人は誰かに言われなくても、しっかりしていた。「良夫賢父」の言葉はなくても自覚があった。 22歳 エステティシャン

*夫が良夫賢父でないと、妻も良妻賢母になれないと思うので「良妻賢母」の中に含まれる。 48歳 主婦

●理想の妻（恋人・友人）はどんな人？

男性
*どんな人にも変わらない態度で接することのできる信念のある人。 46歳 会社員

*人生を積極的に（能動的に）生きる女性。しかもそれが子ども達にとってもプラスの方向へ向かうような目標をもっていること。さらに私にも配慮を忘れない人 44歳 会社員

*明るく健康でメソメソせず、料理は上手、人前では小ぎレイにして、威張らず、やきもち焼かず、金のやりくりうまく、一大事となれば、おっとり刀で駆けつける人。 53歳 公務員

●理想の夫（恋人・友人）はどんな人？

女性
*生活に必要なお金を稼いでくれるのはもちろん、家庭でも気配りのできる人。 30歳 主婦

*母とか妻という枠にとらわれず、私を個人として尊重してくれる人。 35歳 主婦

*一生懸命生きている人。 33歳 主婦

*妻の過不足を理解し、補い合える気持ちとそれを実践できる人。家庭の中でも男女同権（家事の分担ではなく）を考えられる人。 55歳 主婦



理想の夫婦像

レポーター 菊地 一郎 73歳 / 吉祥寺北町

良妻賢母は、男性（夫）側から、男性に都合のいい「理想の妻像」ですよ。女性には、かくあるべきという、男たちの傲慢さと、一方的に女性に滅私奉公を強要している、対等な男女の在り方とはかけ離れています。

多くの男たちが、妻に対する強い依存心から、夫婦は一心同体的な発想をする。これが、基本的に男は誰でもマザコンであると言われるゆえんではないでしょうか。

男性は企業戦士として、家族のために頑張ってきたから、夫や父としての手抜きが公然と認められていたように思います。

私は、一生懸命家族のために身をすり減らして働いていたのだから、それだけでも良夫賢父だと思いたい。

突然の定年離婚は、喜怒哀楽を押し殺して、自分の言いたい事も言わずに来たものが、溜まりに溜まっての結果です。

長続きの秘訣として、普段から気持ちぶつけ合い、お互いに嫉妬や独占欲は程々に。

また、自分の価値観を押しつけない、自分の世界を持ち、共有体験を沢山して『自分の事を解ってくれる』一番身近な関係を創ること。これは理想ですね。

台湾の夫婦の場合

レポーター 加藤和子 41歳 / 境

滞在中出会った台湾の夫婦は、働くことに意欲的。それは、絶えず中国の脅威にさらされてきたため、財産をアメリカに蓄えること、子どもをスキルアップのためにアメリカなど

時には気持ちが悪く離れたたり、思わぬところで寄り添ったり。やっぱり夫婦は、一番身近で、かけがえのない存在です。かつての「良妻賢母」は夫にも妻にも社会にとっても理想の姿でした。せつかく二十一世紀に生きる私たち。夫婦で、新しくミレニアムな関係を探してみましようよ。

- あなたにとって良妻賢母のイメージは？
- 「良夫賢父」の言葉はありません。なぜでしょう？
- 理想の妻（恋人・友人）はどんなひと？
- 理想の夫（恋人・友人）はどんなひと？
- 妻（恋人・友人）は、あなたのことを愛してくれていますか？
- 夫（恋人・友人）は、あなたのことを愛してくれていますか？
- 夫や妻に対する愛情指数は？（恋人・友人でも）
- 「良妻賢母」や「良夫賢父」の21世紀版を造語すると？
- 夫婦として（恋人・友人）、許せないことは？
- 夫婦（恋人・友人）の、長持ちする秘訣は？

●妻（恋人・友人）は、あなたのことを愛してくれていますか？				●夫（恋人・友人）は、あなたのことを愛してくれていますか？			
男性				女性			
年代	そう思う	思わない	ノーコメント	年代	そう思う	思わない	ノーコメント
20代 (5人)	5人	0	0	20代 (3人)	1人	1人	1人
30代 (2人)	1人	0	1人	30代 (6人)	6人	0	0
40代 (9人)	9人	0	0	40代 (11人)	9人	2人	0
50代 (4人)	3人	0	1人	50代 (3人)	2人	1人	0
60代 (2人)	1人	1人	0	60代 (6人)	4人	1人	1人
70代 (3人)	2人	1人	0	70代 (1人)	0	0	1人
25人中	21人 (84%)	2人 (8%)	2人 (8%)	30人中	22人 (73%)	5人 (17%)	3人 (10%)

●夫や妻に対する愛情指数は？（恋人・友人でも）

男性
*0から100%の間を揺れ動く。 70代
*80% ときどきこの野郎と思うことがある。 53歳
*そのときの気分による。 46歳
*愛情を数値化するのナンセンス。 33歳

女性
*時々100、日により70、いつも90%。 60代
*95%、残り5%はタバコを吸うから。 46歳
*愛情は計ることが出来ないけれど、いつも全力投球している。 30歳

●「良妻賢母」や「良夫賢父」の21世紀版を造語すると？

男性
*「強妻稼母」と「賢夫働父」 48歳
◇少子高齢社会の切り札は、強い妻と賢い夫か？
*「糧妻健母」 75歳
◇豊かな心で家人の健康をしっかり管理する姿。

女性
*「強妻賢母」と「育児分担夫」 30歳
*「翔妻輝母」 47歳
◇家庭を守り社会へも 翔く輝ける女性像。

◇この他に夫婦を表す造語で「妻夫多様化」49歳の男性や「仲良夫妻」24歳女性、オリジナルネットワークカーベターハーフ、スーパー主婦とスーパー主人などユニークな意見があった。

●夫婦として（恋人・友人）、許せないことは？

男性
*許せないことは、ない。 28歳
*もちろん浮気。 30代
*仕事で出かけるのにまだ寝ているとき。せめて「いってらっしゃい」くらい言え。 48歳

女性
*弱者に対する暴力、過度の飲酒、喫煙、ギャンブル。 28歳
*風俗通い、そして浮気。 28歳
*私が話すことに何のコメントもなく、フンと鼻で返事すること。 33歳

●夫婦（恋人・友人）の、長持ちする秘訣は？

男性
*ボケたらつつこむ、つつこんだらボケる—これが基本です。 33歳
*気は長く、心は丸く、腹たてず。 48歳
*忍耐、寛容。 53歳

女性
*相手を大事にする。恋人のような気持ちで。 37歳
*束縛しあわず、いたわりあえること。 41歳
*少しづつのガマンと困らないだけのお金があること 46歳
*何でも話し合う。「話さなくてもわかるだろう」は、パートナーへの怠慢だと思う。 60代



会話してまずか

レポーター 眞壁正江 41歳 / 境

地域で働く作業療法士として、障害のある人やその家族が、地域で生き生きと安心して暮らせるように、機能訓練を始め、いろいろな援助をおこなっています。

たとえ病気の後遺症として障害が残ったとしても、少しでも本人が望む生活に近づけることができるように、本人や家族と話し合います。

その時、多くの家族と接して感じることで、こちらが我慢や遠慮で本音が言えないのではないかと、これまでの関係はどうであったのかなどいろいろ考えさせられます。

病に直面し、それまでの生活に戻れなくても家庭や地域の支えがあれば、その人らしい充実した日々は送れるものではないでしょうか。そのためにも、夫婦でお互いが何をすべきか、どう対応したら良いかをざっくばらんに話し合える関係が大事なのだと思います。



ひとつ屋根の下の女と男 こんな夫婦、いいな

お互いのツエになって

中谷茂49歳・憲子45歳
中町在住

「うわー、写真を撮るんですか？もつとキメてくれれば良かった」と笑いながらカメラにおさまってくれたのは、中谷茂、憲子夫妻。盲目同士のカップルである。茂さんは録音タイピスト。テープによる対談、講演会、講読等を文章にするのが仕事だ。憲子さんはマッサージや電話の交換手をしていたが、今は休業中とのこと。

「憲ちゃん」「茂さん」と呼びあう二人の結婚生活は14年。憲子さんが仕事の悩みや不安を、茂さんに相談したのが親しくなるきっかけだった。「私たちは、視覚障害者に生まれ、決して楽ではありませんでした。でも、勉強、仕事、失業、恋愛や失恋、結婚など誰でも味わう苦しみ、悲しみ、喜びを経験できたことが嬉しいです」。また「全盲同士の結婚は、親兄弟が、あまり賛成しない場合が多いんです。健常者と結婚させて『目』の代わりになってほしいと望むわけです。でも目の代りは幾らでもある。例えば、ヘルパーさんもいれば、今やパソコンが本を読んじやうという時代なんです。だけど愛情は機械では補えません」そして「不自由な部分をよりかき合うのではなく、ささえ合うようにしなくては暮らしていけませんね」

二人のこれからの希望を伺うと、憲子さんは「50歳代で自分のコンサートをやりたい。小・中・高と歌の勉強をして、小学校2年の時はNHKの『声くらべ腕くらべ子供音楽会』に出てたくさん鐘を鳴らしました」と当時を懐かしむ。その後もいろいろなコンクールで成績をのこし、今また歌の勉強が始まった。

日本歌曲の他、オペラにも挑戦している。と美子さん。エッセイスト（『若き数学者のアメリカ』新潮社で日本エッセイスト・クラブ賞受賞）でもある正彦さんは「僕らの原稿の一番最初の読者は妻です。家事の途中でも原稿を読む時は、きちんと座ります。20年間書きたてを読んでいたら、今や一流の編集者なみのことを言う」。正彦さんのご両親は、新田次郎・藤原ていさん夫妻。原稿に対する敬意と厳しさを次世代の正彦さんと美子さんは、しっかりと継いでいる。美子さんの著書「子育てより面白いものが他にあるだろうか」が海竜社より出版されている。（文 浜 俊子）



「正しいけんかか藤原家の伝統」と言ったが睦まじい正彦・美子さん夫妻。

夫婦は、二人でそだてるもの

永野大輔28歳・陽子27歳
吉祥寺在勤

結婚生活一年半の暮らしぶりを「良夫賢夫」と自認する大輔さんは前職がミュージシャン。対する陽子さん（会社員）の意見も聞きたくて二人に話しを伺った。

最初の出会いは、晴海の野外コンサート。陽子さんがアマチュアバンドのキーボードで参加していた時に、友人から「彼は怖い人だから絶対つき合っちゃダメ」と言われ、遠く

茂さんの方は「英語の通訳ボランティアがしたい」以前、英語のスピーチコンテストで優勝したことがあり、障害者の国際アピリンピックで通訳などのお手伝いの経験もあるからだ。他には海外旅行、スキーやダンス「何しろノーマンに生きたい」。昨年、新日本出版から、夫妻は「いつも腕をくんで」を出版した。

取材後、この本を読んだが本当の民主主義というの、家の中でも誠実に話し合うことの部分に夫婦の暮らし方を見た。（文 浜 俊子）

写真・



生まれも暮らしも「武蔵野市」の茂さん。歩き慣れた街を、今日も二人は腕をくんで。

ことさら男女平等を叫ばなくても
すつと向き合える夫と妻。
支えて欲しいときは声をかけあい、
励ましあう。それぞれに働いて
一緒に遊ぶ。そして互いに認め合う。
この四組の夫婦のように、キラキラ
したパートナー同士になれば、
とつてもステキです。

から見えていた。宵越しの金は持たない、短気で口が悪い、おまけにモテる…。でも陽子さんには「彼の目は、怖い人には感じなかった」4年後、友人の別荘で再会。皆でワイワイお酒を飲んで「最後に私たちが残っていた。いろんな事をしゃべっていて、気付いたら翌朝10時。この時お互いの価値観とか、人生観が理解できたと思う」二人の答え。

そして、結婚に向けて一波乱。大輔さんが重度のヘルニア（ドラマー病？）になりミュージシャンをあきらめたのだ。陽子さんと彼女の母親への安心感と、自分自身へのけじめとして安定した収入のサラリーマンの道へ。生活の変化を、大輔さんは「結婚前に、気持ち的にマイナスから始めたので、今は前より良いですよ」。前の方がチョット良かったかな」と、ほほ笑む陽子さん。

長い一人暮らしで、家事全般が出来る大輔さんが土日の朝食当番。ワインに魅せられた夫と晩酌、共通の友人とワインの利き酒会や食へ歩きに加え、規則正しい日常生活とで、お互い幸せの卵形に成った体型を、休日に二人で体育館へ筋力トレーニング。プールにも一緒に通い、夏に向け強制引き締め中である。お互いに父親の存在を感じずに育って来たので、見本の夫婦像は無い。自分たちが創っていくものだと思う点は同じだ。

取材中、陽子さんに「自分の言いたい事ややりたい事を正当化したかったらまず俺を納得させてみる」「キチンと目を見て話せ」とちょっと威圧的に話す姿は、下町の雷親父の様。反面キチンと陽子さんの話を聞いてい

うちのリビングは家事分担より大切なものいっぱい

藤原正彦56歳・美子45歳
吉祥寺北町在住

藤原正彦・美子夫妻を訪ねた。数学者と心理学の講師ということで、硬いイメージをもっていたのだが、正彦さんの巧みなジョークで、たちまち楽しい会話になった。

二人の結婚歴は20年。大学生から中学生までの男の子が三人という家族だ。「うちはけんか」が多いですよ。子どものいる前でも意見の違いでぶつかりあいます。でもこれはさまざま価値観を知る機会にもなっているはず、それに家族の刺激ある会話は面白いですよ」と正彦さん。

美子さんは長男が一歳の時、翻訳家養成コースの通信教育を始めた。が、予想以上のきつさだった。「長男が三歳、次男が一歳の時、アメリカでベストセラーになった、『The Lunar Effect』の翻訳の話が夫を通して依頼されたのです。子育ては忙しかったけれどチャンスと思って、週に二、三度はベビーシッターを頼み、さらに子ども達の昼寝時間を利用して、一年かけて仕上げました。夫が翻訳のチェックをし、やっと共訳『月の魔力』（東京書籍）が出来上がったのです」

正彦さんは、子育ての時期であっても妻の勉強は大いに励ます。「知的に成長する妻を見るのは喜びだし、セクシーを感じます。だからと言って僕がお皿一枚洗うわけでもないんですが」。家事は私にとつて大した問題ではありません。それより子育てを含めたさまざまな問題を一緒に真剣に考え、指針を示してくれることの方がはるかに大切です」

る姿は真摯な青年である。長続きの秘訣は「感情のぶつけ合いは、いつも100%では無く、自分で調節をしながら…」と、答えた二人の、10年後にまた会いたいと感じながら取材を終えた。（文 本間則子）

写真



食へ歩きのひとつまー吉祥寺にてー

プラス思考で、ごきげんな関係

中山真 60歳・良子 58歳
中町在住

夫の仕事で、ドイツ、アメリカと子育ての一番大変な時期を駐在員の妻として過ごし、今は、その会社の代表として国内外を飛びまわる忙しい夫を持つ、良子さん。常に外に目を向け、置かれた環境の中で、目一杯の楽しみを見つけてきた。

夫も、「せっかくもらったチャンスだから、食器洗いは機械に任せて、その国の文化やいろんな事を体験したほうが良い」と積極的に外へ出ることをすすめてくれた。

おかげで、ドイツでもアメリカでも、コミュニティカレッジに通い、友達も現地の人の方が多くでき、夫が忙しくても、寂しい思いはなかった。

子ども達がそれぞれに社会人となり、家を離れた今も、週末は夫婦で過ごす事を優先する。旅行、登山、オートキャンプ、ゴルフと

今もある/家制度の名残り

レポーター 匿名 55歳/吉祥寺北町

私は結婚当初から夫の両親と同居でした。二人で作ろうと思っていた生活、夫婦の在り方まで「こうあるべき」と示されてしまい、思えば「こんなはずではなかった！」は、始めからでした。その後の暮らしの中で、私の気配りの順は跡取りを育てる親業、舅姑に仕える嫁業、妻業、そして自分。最近では軽くなった親業と逆に嫁業はますます重さを増してきました。「夫婦」を考えると、夫への妻業は20%ぐらいです。親と同居の場合「家」を抜きにできない夫婦の関係は大いにあります。今、地域活動など外にも向かおうと努めています。が、そんな心のゆとりがでるも、夫への気遣いもふえてくるのでしようか。

夫婦をふりかえってみると

レポーター 小林庸子 68歳/境南町

末っ子同志で、明治生まれの母に溺愛されて育った夫との結婚当初は、意見が合わずよく衝突しました。ベテランの奥さんから「夫が悪くても、先にあやまり、夫の出勤後『パカヤロー』と声に出して言う」とスツとするわと言われ、心に止めて実行してきました。

家族を知らぬ間に手なづけ、家庭をまるやかにできる『おりこうさん』の妻が、本当の良妻賢母なのでは、と考えます。

私の夫は八年前に逝きましたが、ご主人に車椅子を押してもらっている老婦人を見かけると、今でもふつと心をよぎるジェラシーを感じます。夫婦は生きている限り、ケンカしながら愛し合っているってほしいですね。

写真



旅先にて

共通の趣味は多いが、何でも一緒というわけではなく、例えば旅行に出かけても、夫が町を探索している間、妻は喫茶店でゆっくりティータイム。そんな過ごし方を、自然にやれるのである。

「夫は、私のことを『生活を楽しむことが上手な人』と紹介してくれる。『ただ、泥棒と掃除はしないよね』って付け加える」と、良子さんは笑う。

お互いが自分の快い過ごし方をし、お互いの領域を侵さない、独立した大人の付き合いがスマートフォンにできている。長い海外生活、出張、単身赴任などの経験から生まれた夫婦の知恵かも。

「よかったと言えることは、常に学び、思いつく通り遊んでいる姿を子ども達に見せてきたこと」。良子さんは、今年早稲田大学で講義の単位を学び、オープンカレッジの修了証を手にした。

「私、こんなに幸せで良いのかしらと、いつも思っているの」。良子さんはどこまでもプラス思考の人なのである。置かれた環境をしっかり受け止め、バイタルティあふれる生き方をしているのは、中山さん夫婦の、常に人生を思いつきり楽しもうとする前向きな姿勢があるからではないだろうか。（文 倉内弘子）

知 聞 考

「ここ数年、夫婦間の深刻な社会問題として、新聞などで取り上げられているDVを知っていますか？ 最も安全であるはずの家庭の中で、立場の弱い者に対して行われる卑劣な行為。DVは犯罪であるという認識をもって、鈴木隆文弁護士に詳しい話を聞いてみた。」

夫婦の問題抱え込まないで

DVはドメスティック・バイオレンスとは、夫や恋人など親しいとされる関係にある男性から女性がかかる暴力、殴る、蹴るといった身体的なものばかりでない。女性の心を深く傷つけ、萎縮させる精神的なもの、性的な暴力なども含まれる。

これまで夫やパートナーからの暴力は、「プライベートな問題」としてとらえられてきたが、アメリカで社会問題として取り上げられたのが、今から20年ほど前。日本でも昨年の5月に男女共同参画審議会が「女性に対する暴力のない社会を目指して」という答申を行い、暴力被害の実態調査を実施するなど、具体的な対応を始めた。

虎ノ門総合法律事務所に所属する、弁護士鈴木隆文さんは、DV被害の女性の相談に数多く接しているうちに、背景には社会的な女性差別、妻に対する人権侵害など男性問題が大きく影響していると感じた。そのため広く社会に、そして男性に非暴力を訴える取り組みとして、昨年の2月、「DV防止プロジェクト」を立ち上げ、加害者男性を対象にしたワークショップや講演会などを行っている。

●加害者男性を対象にした目的とそのプロジェクト内容、参加費用は？

「DV対策は、被害に遭われた女性を社会支援することが最優先だと思いが、一方、加害者男性の立ち直りに取り組むことも重要です。プロジェクト内容は、まず、暴力を振るう事が罪悪であると認識すること、そして何故、暴力をふるってしまうのか、それ以外に方法がなかったのかなど、心の中にあるものを全てさらけ出すことで、自分自身を見つめる場を提供します。参加費用は、一回500円〜1000円程度です」

●加害者男性に見られる特徴は？

「ある一定割合に見られる傾向として、被害体験がある、父親が母親に対して暴力を振るっているのを日常茶飯事目撃していたなどがあります」

●受講後、改善は見られますか？

「参加する方は、自分の行為の非を認め、直したいと思つてやってくるので、時間は多少かかりますが、回復するケースは高いです。問題なのは多くの加害者に自覚がないことで、それにどう取り組んで行くかがこれからの課題です」

●今後の予定は？

「DV問題は、年齢が低いうちに認識させる必要があるのです、最近では高校や大学での講演会に積極的に出かけています。また、そういう機会も増えてきました」

写真



シェルター、センターへの紹介もしていますので、気軽に電話してください。

共遊 び

夫婦で遊ぼう！

夫婦で過ごす機会が増えたので、ハイキング程度の山歩きから始めたいと思っている方は武蔵野総合体育館3階にある「野外活動センター」を尋ねてみてはいかがでしょうか。相談する時は、①どの方面に行きたいのか、②交通手段は、③目的は、④何をしたいのかなど、具体的に質問してくれると答えやすいそうだ。

自分たちで計画するのが大変なら、まず、センターの事業に参加し、団体行動を経験して、自信をつけてからでもいいのでは。毎月の市報に活動内容が載るので要チェック。体育館に置いてあるDOSUPORTS（情報紙／年一回発行）の年間計画表には、☆印の数で難易度がわかる。また、テントや飯盒などキャンプ用具の貸し出しも有り、個人で借りてもOKだ。

窓口には、お薦め情報や、全国の地図、案内書、山の専門書など充実している。閲覧自由。（取材 倉内弘子）

写真キャプション資料

- 月・水・木・土・日 9時～17時
火・金 9時～20時
- 問い合わせ
TEL 56-2200（代表）
54-4540（直通）

野外活動センターの受付

ちよっぴん

ボランティア

ミニテニスを指導する

武蔵野市ミニテニス連盟
松本茂代さん

毎週火曜日の午前中、総合体育館2階のサブアリーナで、ミニテニスという新しいスポーツの教室が開かれています。4月に発足したばかりの「武蔵野市ミニテニス連盟」の主催だ。連盟発起人の一人で、ボランティアで指導に当たっている松本茂代さん（62歳・吉祥寺東町）に、話を伺った。

テニスラケットより小さなラケットで大きなビニールボールを打ち合うミニテニスは、手首への負担も軽く、中高年になってからでも始めることができる。ゲームは、バドミントンコートを使って、ダブルスのみで行われる。サーブからレシーブまで、すべてワンバウンドしたボールを打つので、あまり運動に自信がない人でも、すぐにゲームを楽しめるようになる。

40名程の教室のメンバーは、60代、70代が中心。夫婦連れも何組かいる。退職後に、共通の趣味を求めて始める人が多いという。

- 費用は、体育館の使用料のみ。
- 連絡先 松本

TEL 2210484

（取材 森 治美）

トピックス

いま むさしのヒューマン・ネットワークセンターでは

■本の貸し出し、1人2冊で2週間

利用者は現在まで述べ約180人。昨年度は子ども・女性の人権をテーマにした本60冊を購入、蔵書は現在846冊です。各市町村発行の女性情報誌や国・都の行政資料、ミニコミ誌、雑誌、女性たちの活躍を掲載した新聞の切り抜きファイルなど充実しています。6月より市民からの女性問題に関する本の寄贈や保存期限が過ぎた雑誌のリサイクル交流も開始。

■今回のテーマ「夫婦」に関する本
情報部の小境範子さん、福沢雅子さんが薦めてくれたのは

専業主婦が消える

末包房子著 同友館
「TAMAらいふ21」地域企画事業8市合同女性フォーラムで、専業主婦の著者は「女性の働き方と100万円の壁」のテーマで講演した中島通子氏の話に目からウロコのショックを受ける。

ドメスティック・バイオレンスを乗り越えて 鈴木隆文・後藤麻理著
日本評論社

虐待や暴力の渦中に置かれている女性や男性がすぐに手に取って使える実践的ハンドブックとしても役立つ内容。

「家族」という名の孤独

斎藤 学（さとる）著 講談社
良妻賢母やいい子など健全な家族が引き起こすアルコール依存症や児童虐待などの事例を紹介。新しい家族のあり方を提言している。

子育てと出会うとき

大日向雅美著 NHKブックス
母性神話が追い詰める母親たちを、今時の母親症候群として紹介。子育ての喜びと出会うため各地の試みや支援情報も。暖かいメッセージを感じる。

写真



■12年度活動計画にふたつの新企画

広報・事業・情報の各部会の他にホームページ開設準備会と相談交流部（新設）のための開設準備検討委員会が設置されました。センターの活動や登録団体の紹介など情報が在宅のまま取り出せるように。また暴力などに悩む女性たちにとって相談できる場所が検討されることは明るいニュースです。

■東京都男女平等参画基本条例が制定されました。

平成11年「男女共同参画社会基本法」を受け今年4月に施行されたこの条例の

Q. 内容は？

「男女共同参画社会基本法」の基本理念をもとに、男女共同参画社会の実現をめざし国に準じた施策や地方公共団体の地区の特性に応じた施策を策定しています。

Q. 前文に書かれているのは？

「男性と女性は、人として平等な存在である。男女は、お互いの違いを認めつつ、個人の人権を尊重しなければならない」とし、「男女が社会の対等な構成員として社会のあらゆる分野の活動に参画することにより、真に調和のとれた豊かな社会が構成されるのである」とあります。

Q. 市の取り組みは？

平成2年以降、二次にわたり男女平等と男女の対等な参画の推進に向けた行動計画を策定。さらに様々な施策を展開し、女性問題の解決をはかっていきます。

■平成12年度女性計画係の予算は11,648,000円です。内訳は、

- ① 女性行動計画推進市民会議の設置 1,229,000円
女性行動計画の推進と検討のために市民12名で構成する市民会議。
- ② むさしのヒューマン・ネットワークセンターの管理運営費 4,519,000円
女性問題に関する活動を行う市民、団体の自主活動や情報交換、ネットワーク化などを促進する。管理・運営委託料、光熱費・通信費、複写機・印刷機の借上料等。
- ③ 女性関係施策事業 5,903,000円

女性フォーラム(トーク&シネマ、ライター入門講座)等の実施、情報誌「まなこ」の発行、女性団体交流会の実施、女性団体活動補助金の交付、「武蔵野の女性史(仮称)」編纂等

■女性関係行政推進会議が開かれました。

平成12年6月2日、市長を議長に女性施策に関連する7部、19課の部課長が出席。女性関係行政の昨年度事業実績と今年度事業予定が報告されました。

■平成12年度の市の新規採用者は10人。

男女比は一般事務職：男性5人女性4人、理学療法士：女性1人です。生涯学習課、交流事業課などへ配属されました。

■女性フォーラムむさしの「トーク&シネマ」を開催します。

日本のポピュラー音楽とジェンダーについて、法政大学教授稲増龍夫氏の講演と、音楽青春映画「バンディッツ」（1997年、ドイツ）を上映。

日時 9月8日（金）講演は午後6時。午後7時40分より映画

場所 武蔵野公会堂 定員350名

費用 無料 当日直接会場へ

連絡先 児童女性課 TEL 60-1852